

体験住宅で移住を決めました。

霜山 哲夫さん(65歳)眞理子さん(53歳)ご夫妻

平成22年7・8月に体験住宅
平成22年7月にハワイより移住
宇和島市吉田町在住



16年間のハワイ暮らしから帰国され、平成22年7・8月に宇和島市の体験住宅を経て、そのまま移住を決定。現在、宇和島市吉田町で暮らす霜山ご夫妻に、体験住宅や移住について伺いました。

Q 移住決定と体験住宅の理由は何ですか？

A 私たちは16年間のハワイ暮らしの後、平成22年、日本に帰国し、移住することを決めました。日本での移住にあたり、ふたつの移住条件を決めました。ひとつは、ふたりとも福島と北海道の出身で、雪のない温かい場所であること。ふたつ目は、都会ではなく、田舎暮らしをしたいということでした。



その条件にあう移住先や体験住宅の情報をインターネットで全国各地から探しました。九州や中国、四国など、様々な移住場所や体験住宅の情報が見つかりましたが、その中で、温暖なうえに海や山がすぐ近くにあり環境良好の宇和島市が条件にぴったりだと思い選びました。まずは生活環境などを調べるため宇和島市の体験住宅の制度を利用する事にしました。



Q 宇和島市での体験住宅の感想はいかがでしたか？



A 宇和島市の滞在用体験住宅の制度を使って、平成22年7・8月の2か月間、同市吉田町喜佐方地区の体験住宅に入居しました。もと教員住宅だった住居が整備されたもので、静かな田園風景の中に建っており、探していた環境に近いものでした。ご近所との交流や、時には四万十川付近までドライブを楽しみ、初めての土地でしたが、自然環境や地域の暮らしが良くなりました。



Q 体験住宅の後、宇和島市への移住はすぐ決まりましたか？

A 2か月の体験住宅で周辺の自然環境や地域の暮らしが良くなり、地域住民との交流も図ることができましたので、1か月の延長をせず、そのまま正式な移住を決め、宇和島市吉田町に新しい入居先を探しました。通常、アパート・マンションなどの賃貸契約での保証人など、入居時の問題があると聞いていましたが、幸いアパート入居の保証人には体験住宅時に会った知人が引き受けてくれ、家具や生活備品などもご近所の方や知人から数多くいただくことができました。どれも滞在用体験住宅のおかげだと思っています。

Q 滞在用体験住宅のメリットは何ですか？

A 全国の多くの体験住宅は1〜2週間の短期間が多いのですが、宇和島市は最大3か月の滞在ができました。1〜2か月間、暮らしてみると周りの自然環境やその土地の暮らしが良くなると思います。移住すると長年暮らすわけですから、後で後悔しないためにも、事前の滞在用体験住宅の制度はとても便利な仕組みだと思います。また、宇和島市における担当者の対応や静かな環境、家賃の安さ、家具付きなどの制度も魅力ですね。

Q 現在のお仕事や暮らしはどうですか？

A 静かな環境や、ご近所との関係は満足していますが、本格的な仕事はこれからです。ハワイのマウイ島で暮らし、別荘の管理などを手がけるハンディマンサービス(便利屋さん)の会社を営んでいましたが、現在もその経験を活かし、庭木の剪定や家の修理など地域の“便利屋さん”を目指しています。人と人とのつながりが大事なので、仕事もそこから広がれば良いと考えています。家内も地元介護関連の仕事に就いており、忙しい毎日を過ごしています。



Q 体験住宅の利用者にアドバイスがありますか？

A 体験住宅でのお試し生活は移住を考えるにはとても良い制度だと思いますが、1週間程度の体験住宅では旅行気分の延長のような気がして、周辺の自然環境や地域の暮らしを詳しく知ったり、地域との交流を図るには、ちょっと時間が足りないように思います。

長期の体験住宅では、周辺の自然環境や暮らしがじっくり理解できるので、長期の体験住宅の利用は逆に移住先決定の近道かもしれませんね。そのためにも、事前に移住先や体験住宅の仕

組みなどを良く調べておく事が大切ですね。また、行政サポート面では体験住宅情報だけでなく、短期、長期の仕事情報の提供があれば、もっと多くの方が体験住宅を利用し、移住の定着率が上がるのではないのでしょうか。

